

支那の革命と清の統治

支那の革命と清の統治 第四十一年十月廿六日 前六〇〇

山田外務大臣 水野依領事

才一六〇〇

先般政海より来りし鶴岡永太郎が支那
物産と交る利用し孫逸仙を容れし
孫ハ才一中央又那に於ける蜂起ハ自分
指揮に出たりし事才一は際々派員日本
派航しし日中政府内意伺と方官
崎にお電しし処十月二十四日支那より返電
アリ支那名士上陸滞りしハ危しキ由ナリ

外務省

氏自分ハ短時日にてモ若シカラサレバ公物滞り
シタレ危しハ日本ノ同情アル態度ハ革命
軍ノ士氣ヲ振作シ以時日本に政府ハ
陰に北京政府ノ庇護スルトノ疑ヲ解キ得
ハ双方に於テ利益アリ才一近々英米
領テ政海へ渡ハ旅行ノ目的ハ孫逸仙
ノ支那逸米法を留置し革命軍
志少カラス殊ニ孫逸仙ハ皇帝ハ頼テ
彼等より由リテ我方ノ運動ハ好意ヲ表
シ居ラレハ依リテ助力ヲ求メトス才一

MT 16147

006

MT 16147

005

REEL No. 1-0891

0439